

FMU 男女共同参画通信

第27号 December 2020

福島県立医科大学男女共同参画支援室

昨冬とは打って変わり厳しい冬季に入り、今年も猪苗代湖や阿武隈川には白鳥の群れが飛来、朝夕には美しく飛びかう姿を見せ始めています。さて、新型コロナウイルス感染症は今月に入りさらに厳しい局面を迎えつつあります。男女共同参画事業の一環として、下期前半に計画したイベントの多くが残念ながら実施見送りとなってしまいましたが、来月から順次イベントを開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。ひとり一人が一層感染予防を徹底して行いコロナ禍を乗り切っていきましょう。

管理職対象のハラスメント研修会を開催 (11/25)

11月25日(水)、本学ハラスメント対策委員会の主催により、管理職向のハラスメント防止研修を開催しました。講師に株式会社インソースの手塚英樹氏をお招きし、「パワハラと指導の違い」をテーマにご講演いただきました。コロナウイルス感染対策の面から、会場とWebによるオンラインのハイブリッドで開催したところ、202名の方が受講されました。研修では、「パワハラ危険度チェック」「自分の癖チェック」といった各自のワークもあり、日頃の言動を振り返るきっかけになったことと思います。参加者からは、「『叱る』と『怒る』の違いを改めて知ることができた」等、様々な感想が寄せられました。



今回の研修資料は、デスクネットに掲載しますので、参加できなかった方もぜひご一読ください。

一般教職員の方、今回の研修を受講できなかった管理職の方は、厚生労働省「あかるい職場応援団」のホームページに掲載されているオンライン研修の受講をお願いします。

URL: <https://www.no-harassment.mhlw.go.jp/learning/>

FMU キャリアサポート交流会を開催 (9/23)

9月23日(水)に「FMU キャリアサポート交流会」が開催されました。本セミナーも新型コロナウイルス感染対策の面から、会場開催とWeb同時開催のハイブリッドセミナーとなり43名の教職員、大学院生、学部学生が参加されました。最初に「劣等生だった僕らが人を育てる立場にいるという奇怪」と題して、看護学部小児・精神看護学部門助教 田村達弥先生及びきぼう棟7階東 主任看護技師小林浩之先生に、大学入学から現在に至るまでのキャリアについて紹介いただき、さらには男性看護師の現状やあるべき姿、そして家庭における父親としての在り方について講演いただきました。



て、医学部病態制御薬理医学講座准教授 前島裕子先生に、キャリアを通じた研究者としての果敢な取り組みを真実と本音を交えてお話しいただき、研究者としてのプロ意識を持ち、常に目標を念頭に置きながら活動されている姿についてご紹介いただくなど大変有意義な交流会となりました。

全国ダイバーシティネットワークから認定証

今月14日(月)に、全国ダイバーシティネットワーク主催による全国ダイバーシティネットワーク認定証交付式が行われ、全国の女性研究者活動促進に向けた環境整備に取り組む機関として、各大学等の活動組織に認定証が交付され、福島県立医科大学に対しても交付されました。

これは、これまでの男女共同参画事業としての各種活動や現在の取り組み姿勢が認められたものです。

続いて「Girls, let's be ambitious!」と題し

東北大学男女共同参画シンポジウムにオンライン参加

11月28日、人を育てる～ポストコロナ時代～と題しまして第17回東北大学男女共同参画シンポジウムが、オンラインで開催されました。

特別講演では、元沖縄科学技術大学副学長の Dilworth Machi 先生より海外の事例により学ぶアカデミアにおけるダイバーシティ推進についてのご講演を賜りました。その中で”institutional transformation”の重要性を強く訴えられました。

つまり制度、組織の変革です。ダイバーシティの考え方が重要視される現在、まさに福島医大でも性別はもとより、人間の多様性を最大限に生かせるよう、意識を含め、制度と組織の改革がますます必要になると思われました。

一方、このコロナ禍で職を失った方の多くは非正規雇用の女性であるという報道があります。この現状は日本社会の脆弱性を浮き彫りにしたともいわれておりますが、立ち止まってこれから何が必要かを考えると、女性自身も自分

の可能性を最大限に発揮する自らの意識、努力、組織が手放したくないと考えるスキル、自分だから貢献できることを持つことではないかと感じます。

つまり私はこのシンポジウムに参加して制度・組織の変革とともに、女性も組織社会の中で何としても才能を発揮するんだ！認められるんだ！という強い意思を持つことがこれからの日本にとって大切になっていくのではないかと感じました。

(寄稿:病態制御薬理医学講座准教授・男女共同参画支援室員 前島裕子先生)



Information

<<FMU キャリアサポート交流会>>

■日時 令和3年1月27日(水)

16:40~18:00

■場所 第一臨床講義室(会場とWeb同時開催)

■講師1 医学部基礎病理学講座

講師 杉本 幸太郎先生

テーマ「若手のための現実的なキャリア戦略」

■講師2 看護学部地域・公衆衛生看護学部門

助教 秦 暁子先生

テーマ「これが私の生きる道」

<<FMU カフェ>>

■日時 令和3年2月24日(水)

16:00~17:00

■場所 第一臨床講義室(会場とWeb同時開催)

■講師 性差医療センター

教授 小宮 ひろみ先生

<<FMU スキルアップセミナー>>

■日時 令和3年3月2日(火)

16:00~17:00

■場所 災害医療・医療産業棟7階会議室2
(会場とWeb同時開催)

■講師 医学部衛生学・予防医学講座
准教授 各務 竹康先生

「研究支援員の配置に係る要望調査」 のご案内

ライフイベント(出産・育児・介護・看護等)を抱えた教員の研究支援を行っております。つきましては、令和3年度上半期配置分の調査を行います。

支援期間 R3年4月1日～R3年9月30日

1. 対象者:

本学の主に医学部・看護学部・会津医療センターに所属する助手以上(大学院生も含む)の研究者(性別は問いません)のうち①～④にあてはまる教員。

- ① 妊娠中
- ② 家庭において、小学校6年生までの児童の主たる養育者
- ③ 同居・別居に問わず要介護認定を受けている親族の主たる介護者
- ④ その他、上記に準ずる(家族の看病をしている等)状況

2. 支援を希望される方:

1月に配布予定の調査票にて、詳細をご確認ください。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、仕事と生活の調和を実現することを目指しています。

福島県立医科大学 男女共同参画支援室

E-mail: gendeqsp@fmu.ac.jp / Tel: 024-547-1657 (内線: 2807) / HP: <http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/>
男女共同参画支援室長 小宮 ひろみ / コーディネーター 橋本 にしき